



平成27年3月2日の定年退職となられる先生方の最終講義より、最終講義の内容は次号7月号に掲載予定。写真左から、中居賢司教授、三浦廣行教授、遠藤重厚教授

主陵會々報

発行所
 岩手医科大学主陵会
 〒020-8505盛岡市内丸19の1
 Tel 019(651)5111番
 Fax 019(624)8380番
 E-mail:info@keiryokai.gr.jp
 URL http://www.keiryokai.gr.jp
 題字 三田定則先生書成
 発行人 石川育千
 編集 前沢千印
 印刷所 山口北州印刷

4 月 号

目 次

役職人事	1
創立二〇周年記念事業の紹介	2
教授就任のご挨拶	7
平成二十六年卒業生名簿	8
本学主催学会開催予定	10
學術振興会共同研究・成果要旨	11
主陵会本部だより	
代議員会・総会開催案内	20
常任幹事会・幹事会報告	19
支部だより	23
医学部同窓会だより	
評議員会・総会開催案内	25
歯学部同窓会だより	
評議員会・総会開催案内	29
常任理事会・理事会記録	
会員だより	
大学人事・国試結果	38
お祝い・ご逝去・編集後記	37

学校法人岩手医科大学・岩手医科大学役職者人事

理事長(兼学長)

小川 彰先生(再任)
二十七年二月二十三日付

副学長(兼医歯薬総合研究所長)

祖父江憲治先生(再任)

副学長(歯学部改革担当)

三浦 廣行先生(新任)

医学部長
(医学部形成外科学講座教授)

小林誠一郎先生(再任)

歯学部部長
(歯学部口腔医学講座歯科医学教育学分野教授)

三浦 廣行先生(再任)

附属病院長
(医学部神経精神科学講座教授)

酒井 明夫先生(再任)

附属病院副院長
(医学部放射線医学講座教授)

江原 茂先生(再任)

(医学部産婦人科学講座教授)

杉山 徹先生(再任)

(医学部小児科学講座教授)

千田 勝一先生(再任)

循環器医療センター長
(医学部心臓血管外科学講座教授)

岡林 均先生(再任)

歯科医療センター長
(歯学部歯科保存学講座う蝕治療学分野教授)

野田 守先生(新任)

附属花巻温泉病院長
(医学部整形外科学講座 教授)

一戸 貞文先生(新任)

高度救命救急センター長
(医学部救急医学講座 教授・医学部救急医学講座担任者としての間)

井上 義博先生(新任)

学生副部長

小豆嶋正典先生(再任)

医療専門学部長
(歯学部口腔顎顔面再建学講座歯科放射線学分野教授)

小豆嶋正典先生(新任)

以上、平成二十七年四月一日付

教授就任のご挨拶

平成二十七年一月一日付



腫瘍内科学科(新設)

教授 伊藤 薫 樹

主陵会の皆様方におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。この度、腫瘍内科学科が新設されるにあたり、平成二十七年一月一日付けをもちまして、同学科の初代教授を拝命致しました。新設の学科を主宰させていただきますことは身に余る光栄でありますとともに、その重責に身の引き締まる思いしております。

私は、平成三年に本学医学部を卒業後、旧内科学第三講座に入局するとともに、附属病院の臨床研修医として研修を開始致しました。田村昌士元教授および故厨信一郎教授のご指導の下、附属病院および関連病院にて呼吸器疾患や血液疾患の診療に従事し、論理的思考に基づいた診断や病態把握による徹底した診療姿勢を学びました。平成六年から血液部門に所属し、血液疾患の診療や研究に専心して参りましたが、父の急逝のため北海道小樽市で二年半開業医として地域医療に従事致しました。その間、故厨教授や現内科学講座血液・腫瘍内科分野の石田陽治教授の下、赤血球の酵素異常症のスク

リーニングを研究テーマとしてご指導を賜りました。このような親身な教育姿勢や大学アカデミズム、そして血液領域の治療法の刷新もあり、血液内科医として再び本学に戻りました。その後、臨床に従事する傍ら、フローサイトメトリー法を用いた白血病微小残存病変の評価法の開発により学位を取得いたしました。平成十六年から二年間、

米国のインディアナ大学医学部微生物免疫学講座(Broxmeyer教授)に客員研究員として留学する機会をいただき、生物学的手法とノックアウトマウスを用いて造血幹細胞の増殖機構の研究を行いました。ここでは、医学の基礎研究に対する姿勢や研究方法などを学び、現在の私にとって貴重な財産の一つとなっております。帰学後、平成二十年には内科学講座血液・腫瘍内科分野が新設され、石田陽治現教授の下、教育、診療、研究の研鑽を積んでまいりました。翌年には腫瘍センターの副センター長を拝命し、標準化学療法を安全に実施するための取り組みとして、レジメン審査委員会の開催やレジ

メン登録の推進、多職種での化学療法セミナーや臓器横断的セミナーによるがんチーム医療の推進を行っておりま

す。また、対外的には県内のがん診療の質の向上を図るため、岩手県がん診療連携協議会の連携事業として、地域がん拠点病院をテレビ会議システムで結び、定期的なキャンサーボードミーティングを開催してまいりました。平成二十二年にはがん薬物療法専門医資格を取得し、講座の准教授として造血器腫瘍のみならず原発不明がんなどの診療を行い、腫瘍内科としての役割も担ってきました。

腫瘍内科は、臨床腫瘍学教育、がん薬物療法の実施、がん薬物療法専門医の育成、がんの基礎および臨床研究をミッションとする講座です。教育については、新内科専門医制度において腫瘍内科領域の習得が義務づけられることが決まっております。大学教育に課せられた大きな使命の一つであります。さらに次世代のがん医療を担う人材を育成するため、卒前・卒後の臨床腫瘍学教育カリキュラムの充実や臨床研修システムの構築および文科省が主催するフェッショナル養成・推進プランとの連携を図ってまいります。診療面では、造血器悪性腫瘍や原発不明がんの薬物療法および希少がんの治療方針や有害事象コンサルタントへの対応が主体ですが、副作用管理が重要となる分子標的薬の導入などもチーム医療での対応を開始しました。今後は他の固形がんの

薬物療法にも携わってまいりたいと考えております。また、最近では外来での化学療法施行数が著増しており、化学療法外来機能をさらに高める時期にきておりますので、各診療科のご理解をいただきながら、腫瘍内科医としてより円滑な運営に協力してまいります。

一方で、地域の高齢化が深刻化する本県のがん医療の将来像を真剣に考える時期でもあります。がん診療連携拠点病院や中核病院などとの連携を密に行い、がん薬物療法および支持療法が適切に行えるシステムの構築にも取り組む必要があると考えます。研究面では、

以前から取り組んできた造血器腫瘍の一つである多発性骨髄腫の新規薬剤治療法の開発や薬剤耐性メカニズムの研究を行ってまいります。また、厚労省のがん政策研究事業であるHELVYにキャリアの全国実態調査と診療体制を確立する研究を研究班の班員として継続して行っております。本学は医歯薬系総合大学ですので、この利点を最大限に活用してリサーチマインドを持った腫瘍内科医を育成しつつ世界に発信できる研究を推進していきたいと思っております。

もとより浅学非才の身ではあります

が、岩手医科大学腫瘍内科学科と本学および腫瘍センターの発展のために教育、診療、研究に最大限の努力をいたしますので、主陵会会員の皆様方にはより一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。